

木住協 30周年事業 木造循環住宅供給体制第1回WG 議事録

とき : 平成26年6月17日(火) 17:00~18:30

ばしょ: 内野設計万代町事務所

参加者: 浜本(県木連)、後藤(木の家づくり協会)、山田(徳島県木の家地域協議会)、高田、内野(建築士会)

ーキックオフで終わらないためにー

○大工さん育成

- ・大工育成塾、国の補助金で運営。月に2回の座学を大阪で受講、普段は工務店などで修行。墨付、手刻みができるようになって三年で卒業(半分以上やめてしまう)。卒業生で一軒建てている。
- ・高知は、県が補助をして、手刻みできない大工さんに技術を教えている。
- ・プレカットの普及で大工さんの価値が下がってしまった。
- ・請負をやると、「いくら残るか」にアタマがいつてしまって、いいものを、という気持ちを忘れてしまい、いいものができなくなる。
- ・大壁が増えて技術が見えない。
- ・プレカットと手刻みでは、建方の際の「気合」が違う。
- ・大工さんの確保は、社員化による囲い込み!
- ・左官屋さんも絶滅寸前。左官仕事ができ型枠を組める「多能工」は重宝される。

○備蓄

- ・問題は金利と場所。
- ・製材所や工務店など、いろんなところで少しずつ備蓄を。常に備蓄量の集計と管理をキーステーションで集中的に行う。
- ・いろんな寸法の材ではなく、四寸角材のみを備蓄する→工法開発「四寸角の家」→四寸角の3m材、4m材、それと板材があれば建つ家を。
- ・かつての「備蓄機構」的な組織ができれば、安心して取り組める。
- ・民間住宅だけではなく公共建築も。
→大空間が必要な建築ばかりではない。四寸角の家の応用で木造化できるものがある。
- ・小さなエリアで完結する流通を→運搬距離を短く→石油使わない
- ・伐る人がいない、伐っても合わない。補助金が出る間伐だけしている・・・。
- ・林道整備、高くなる、消費者の理解、問題山積。

○お金を生む仕組みを

- ・復興税→事前復興税?
- ・未被災地同士で協定を結ぶ。
- ・「国土を守る」ために。町のお金をもってくるしくみ。

○宿題 問題は多いがとりあえず動いてみる「お施主さんが喜ぶいい家が比較的安価に」

- ・山田: 山側の業者に備蓄の話をしてみる。
- ・浜本: 木材市場と備蓄の話をしてみる。
- ・後藤: 材を出してくるところでの工夫を考える。
- ・高田: お金をどう引っ張ってくるか。
- ・内野: より説得力のある全体ストーリーを考える。

○次回

- ・7/14 17:00~@内野設計 「続 シンポを通して根本的なことを考える会」